



病院NEWS

no.
355
2014
01/01



The Hospital News, Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

新年に当たってご挨拶

病院長 千田 彰一

而立する大学病院

香川大学医学部附属病院は、開院後30年の年輪を重ね、昨年而立の齢を迎えました。この間、安心安全のまた最高最新の医療を提供すること、常に探求心を持って新たな診療研究を進めて最先端の技術習得に努めること、そして次代の有能な医療人を育成することなど、大学病院に課せられている使命を着実に遂行してきました。新設医科大学といわれた頃から脱皮し、香川県の医療を“ささえる”中核病院としての自覚と責任を持たねばならないと認識しています。

地域医療を“ささえる”拠点病院

地域の医療を支えるため、地域行政や医療機関と“つながる”ことが大切で、それぞれの役割分担遂行に徹し連携することが必須の時代となりました。本院は、県下唯一の大学病院、特定機能病院として救命救急センター、総合周産期母子医療センター等などの配備とともに、県災害拠点（地域災害医療センター）、県がん診療連携拠点、エイズ治療拠点、県肝疾患診療連携拠点、認知症疾患医療センターなどの指定を受け、より一層病院機能を強化して地域医療を“リードする”責務を果たしていきます。

病院再開発の進展

一昨年から始まった病院再開発事業の第1段として南病棟が3月に竣工予定です。個室の増加などアメニティの向上と医療環境の改善を目指し、診療機能の効率化と患者さんが分かりやすいように病棟での診療科表示を再編します。これから5年をかけて、現在の東西病棟の改修を行い、併せて中央診療棟および外来診療棟の改修を順次進めていきます。遠くない将来、超高齢社会の中で医療の高度化・専門化が進むと、個々の医療機関の特色を活かした機能分担および病院内外で医療全般につき連携が必須となるでしょう。さらに保健・医療・福祉が混在一体となる地域包括ケアの事態が想定され、社会のニーズに合致した大学病院の役割について再考が必要かと考えます。

新手術棟の建設

本院の入院患者に占める手術実施患者割合は55%と国立大学病院で最多で、手術場はフル稼働で、入院待機が長引いてご迷惑をおかけしています。この二年間の文科省への申請が認められ、本年夏から手術棟の新設工事に着工します。来年には現手術場の改修部屋を含め全12室体制となり、次世代の外科手術にも対応できるように種々支援機能を配備した広いハイブリッド型手術室の稼働も予定しています。

患者さんのために

本院はあらゆる疾患の急性期患者を主に受け入れますが、ことに県民から要望の強い、緊急時に断らない体制をとるため、新病棟1階に救命救急センターを設置します。地域の救急医療機関の最期の砦として、多発外傷、脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、急性呼吸不全、重症熱傷、中毒、多臓器障害などを受け入れるとともに、大規模災害時等の支援体制、防災機能を果たせるように整備します。

最新鋭医療機器の導入

手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”を昨年導入し泌尿器科領域での診療を開始しました。また、様々な領域でナビ支援機器などを配して、高度手術に対応できるようしています。さらに腫瘍の根治と機能温存を両立可能な高精度放射線治療をめざし、最新の高エネルギー放射線治療装置を導入します。これは、がんが存在する周辺の正常組織にできるだけ影響を及ぼさないようにする特殊な治療手技（三次元原体放射線治療や強度変調放射線治療など）を実現するものです。また、稼働しているCT、MRやPET/CT、SPECT/CTなど画像診断装置も、戦略的に年次毎に最新鋭機へと順次更新していく体制を確立しました。

小児や周産期医療を担う

小児科は、地域の夜間診療にも参加する文字通り24時間、高度先進医療を行う体制をとっています。総合周産期母子医療センターとして、NICU、MFICUで小児科医・産婦人科医のスタッフが連携して、合併症妊娠やハイリスク妊娠分娩、集中治療を24時間体制で行っています。年間分娩数は、同規模国立大学病院中最多を誇り、地域に貢献しています。

高度先進医療の推進

あらゆるがんに対し、外科的な治療手技はもちろん抗がん剤による化学療法や放射線療法など集学的治療を進めています。また主に内科医が行う造血または末梢血幹細胞移植療法、血液浄化療法、心血管カテーテル治療法、rt-PA静注療法、消化器内視鏡治療法、ラジオ波焼灼療法など高度先進医療に積極的に取り組んでいます。

チーム医療の促進と医療者の環境整備

職種間連携による医療安全と医療の質向上が謳われ、チーム医療の促進が求められる時代を先取りし、合同カンファレンスなどを通じた診療領域間連携など、医療人と補助者が、質の高い診療情報を共有し合い、一体となって診療の充実に努めます。また、医療者の免許資格業務のイフォート率を上げるため、看護補助者や診療情報管理士をはじめ医療クラークなど事務補助者の適所増備を図ります。地域連携の要となるよう、メディカルサポートセンターの拡充を計画しています。

最後に、県民にとって安心で頼りになる大学病院であるよう努めますので、皆様方のご理解ご協力をお願いしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

開院30周年記念式典等の開催について

総務課

昭和58年10月に香川医科大学医学部附属病院として開院し、この度30周年を迎えました。この節目の年に際し、これまでご支援・ご尽力いただいた皆様に感謝の意を込めて、記念式典、記念講演、記念祝賀会を12月14日(土)に高松市内のJRクレメントホテル高松にて開催いたしました。

記念式典には、浜田香川県知事、布村文部科学省高等教育局長、森下香川県医師会長など多数のご来賓を始め、関連の諸団体・医療機関などの皆様、元教職員のこれまで病院運営にご尽力された方など計300名ほどのご臨席を賜りました。

記念式典の式辞で千田病院長は「新設医科大学という厳しい環境の中、地域の医療・福祉への貢献を果たしてきたが、旧香川大学との統合や法人化と環境が大きく変わったが、組織再編などの施策を実施し、さらに地域医療及び本院の人材育成を重要課題と認識し努力していく。18年度から企図された再開発事業は20年・30年先を見据えた未来志向の病院機能強化をめざす本事業に期待している。『ささえる、つながる、リードする』をキャッチフレーズに掲げ、大学病院の使命遂行に邁進する。」と述べました。続いて、長尾学長より「医療水準の向上が大学病院の責務であり、医療人材の育成も重要なことから、大学として教育研究機能を充実していく。」と挨拶があり、来賓の布村文部科学省高等教育局長、浜田香川県知事、森下香川県医師会長からこれまでの本院の30年間の取組みなどの評価を交えて祝辞を頂戴しました。

続いて、高久史磨先生(日本医学会会長)から「21世紀の医学と医療」の演題で長尾学長が座長のもと記念講演があり、地域医療、これからの最先端医学、医学教育などのテーマで興味深い講演を頂きました。

その後、会場を移して記念祝賀会では、森医学部長の挨拶の後、大西高松市長、松下琉球大学医学部長(香川医科大学第6期生)から祝辞を頂戴し、来賓の方々の鏡開きの後、今井三豊総合病院名誉院長の発声で乾杯がありました。締めめに寛香川大学医師会副会長からの挨拶で閉会となりました。

これを契機に、この30年間に本院にご尽力賜った全ての皆様に重ねて心から感謝申し上げますとともに、今後ともなお一層のご指導ご協力をお願いし、地域の中核病院としての大学病院の使命に邁進する決意を新たにしました。



記念式典



千田病院長 式辞



長尾香川大学長 挨拶



布村文部科学省高等教育局長 祝辞



浜田香川県知事 祝辞



森下香川県医師会長 祝辞



高久日本医学会長 記念講演



記念祝賀会 鏡開き・乾杯

香川大学医学部附属病院開院三十周年記念式典 式辞

本日、ここに香川大学医学部附属病院開院三十周年記念式典を挙げるにあたり病院長として、一言挨拶申し上げます。年末を控え皆様ご多忙の中、本式典にご出席いただき、まことにありがとうございます。文部科学省高等教育局長布村幸彦様、香川県知事浜田恵造様、香川県医師会長森下立昭様を初めとして、日頃から本院をご指導ご支援賜っている多くの方々の来賓を賜り、心より感謝いたします。

本院は、昭和五十八年十月に香川医科大学医学部附属病院として、恩地裕先生を初代病院長に開院いたしました。その後、清水久太郎先生、細川清先生、田邊正忠先生、高岩堯先生が病院長を務められ、香川大学医学部附属病院となった平成十五年十月から現学長の長尾省吾先生、石田俊彦先生と受け継がれ、この度開院三十周年を迎えました。

本日、こうして思い返しますと、新設医科大学という厳しい環境の中限られた予算と慢性的な人手不足に悩まされながらも、病院構成員同日夜診療に精励し、精一杯の力を出し、協働して地域の医療・福祉への貢献を果たしてきたことを誇らしく思います。また、本学医学部卒業生は、三八五名、看護学部卒業生九百二名を数え、医師となった卒業生の約三十八パーセントが香川県内で医療に従事し、既に県内全医師の約三十八パーセントを占めるに至っており、医療人育成についても地域へ相応の貢献をはたしていると思っております。

直近の十年間は、平成十五年十月に旧香川大学と香川医科大学が統合し、その半年後、平成十八年四月に国立大学の法人化があり、大学病院を取り巻く環境が大きく変化した時期でありました。医療に対する社会の厳しい注視の中、診療報酬改定に翻弄されながらも、高度医療機関として円滑に機能するため、診療科の再編や新しい組織の設置、人的物的な投資を積極的に行うなど、工夫を凝らした施策を実施して参りました。さらに、新医師臨床研修制度となつて以降、地方の大学病院に残る研修医の減少が社会問題化する中、地域医療及び本院の将来を託す若い人材の育成は最重要課題であると認識し、全診療科協働で研修医確保に向け多大な精力を傾注してきました。このような状況の中、県下の医療機関からの医師派遣要請は高まるばかりで、診療領域ごと(チーム)としての派遣でお応えするよう、今後さらに努力しなければならぬと考えています。

平成十八年度から企図された病院再開発事業は、平成二十二年暮れに文部科学省施設整備実施予定事業として採択され、平成二十四年四月から南病棟新築その他第期工事に着工し、来春竣工の予定です。私自身が三十年の時を経て、建設中の病院工事現場に足を踏み入れる機会に遭遇することなどおおよそ思い及ばないことでありました。本院の二十年三十年先を見据えた未来志向の病院機能強化をめざす本事業は、構成員の士気を鼓舞し、新たな発想の源泉になると期待しています。

本院では、「患者さんや地域医療をささえ」「大きな志と使命感を持つ医師看護師としてメディカルスタッフが地域、国内そして世界の医療機関とつながること」に、「大学病院として医療をリードしていき」「この思いを込めて、「ささえる、つながる、リードする。」このキャッチフレーズを掲げました。本院の理念、目標達成に向け、さらに変遷する時代を先取りして、構成員丸ごと大学病院の使命遂行に邁進する所存です。

開院以来の三十年間に本院にご尽力賜った全ての皆様に、重ねて心から感謝申し上げますとともに、今後ともなお一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

平成二十五年十月十四日

香川大学医学部附属病院長 千田 彰一

世界糖尿病デーイベント2013報告

糖尿病センター



糖尿病克服プロジェクト「チーム香川」(構成団体:香川県・香川県医師会・香川大学医学部附属病院)では、平成25年11月17日(日)に、世界糖尿病デーイベントとして「こんぴらさん健康ウォーク」を開催いたしました。

午前中は、糖尿病など生活習慣病の原因となる肥満予防について井町仁美医師が話し、県の健康福祉総務課の佐野昌美氏より小児生活習慣病予防健診の結果を基に説明頂き、肥満になりにくい食事の摂り方をランチオンセミナー形式で大嶋球乃管理栄養士が指導しました。



午後からは血圧測定などのメディカルチェックの後、こんぴらさん健康ウォークを開始しました。参加者のペースは予測していたよりも早く、一番に到着された御夫婦は開始10分も立たないくらいで、ゴールの待機スタッフが「えっ、もう!?」と驚いたくらいです。午後1時半を過ぎた頃には、天気が崩れ雨も降り出しましたが、そんなに濡れることなく、また心配していた怪我人や急病人も出ることなく、無事終了出来たことが何よりでした。

下山されてきた参加者の方々からは、「階段はちょっときつかったけど、楽しかった。」との嬉しい言葉をたくさん頂くことが出来、「やりきったという誇らしげですがすがしい表情が印象に残りました。万歩計をつけて登ってもらいましたが、終了後に「お持ち帰りください」と伝えると「嬉しい、じゃあこれからもこれをつけて頑張るわ。」と返事が帰ってきました。

今回のイベントを通し、食事や運動に対し、肥満予防のための意識付が出来たのではと思います。今後もこのような活動を続けていけるよう頑張りますので宜しくお願いいたします。



チーム香川世界糖尿病デー2013 ブルーライトアップについて

今年の世界糖尿病デーに伴うブルーライトアップは、11月10日～17日の期間で、銭形・丸亀城・玉藻公園・土渕海峡・さぬき市民病院(11日～15日)で行いました。

三豊総合病院の米井泰治先生(香川県糖尿病協会会長)のご尽力により、毎年開始場所が増えていき、西は観音寺から東はさぬき市と県内各所でライトアップされるようになりました。



第6回 医学生と医師の卒後キャリア形成に関する情報交換会が開催されました

ワーク・ライフ・バランス支援室



平成25年11月18日(月)午後6時半より、標記情報交換会が附属病院職員食堂(オリーブ)にて開催されました。

これは、香川県、日本医師会、香川県医師会、香川大学医師会ならびに本院の共催により、将来の医療を担う医学生や若手医師を対象に、今後のキャリア形成に役立ててもらおうと実施している情報交換会で、学内外から68名のご参加をいただきました。

今回は、香川県医師会の坂東先生、香川県医務国保課の福家先生、本院の泉川先生、杉元先生、西澤先生、綾木先生及び綾歌町国民健康保険綾上診療所の十枝先生から、WLBに対する取り組みや、医師の仕事と生活について、ユーモアを交えながらお話をいただきました。

講演終了後は、引き続き参加学生と医師との懇談会が開催され、大盛況のまま終了となりました。

院外イルミネーション点灯(12/2~1/10)

来院されるかた皆さまの心の安らぎになればと、病院玄関ホールにクリスマスツリーを、病院玄関前に電飾によるイルミネーションを飾っています。

12月2日(月)17:30~、病院玄関にてイルミネーション点灯式を開催しました。

千田病院長の挨拶の後、カウントダウンで点灯しました。

なお、イルミネーションは12月2日(月)から、翌年1月10日(金)まで点灯しました。



医事課



4年間の実習の総まとめ—統合実習—



看護部

自己の能力や適性、志向に適合する看護分野を自ら選択して主体的に実習することを目的とした実習で、11月5日(火)~11月22日(金)まで実施されました。

より臨床の看護実践に近い形の実習で、複数患者受け持ちや多重業務、夜勤体験を看護師の指導を受けながら経験します。後、4ヶ月で新人看護師として臨床現場へ出て行く学生達で、4年間の実習の総まとめとしての実習です。

学生実習受け入れについて

ME機器管理センター

ME機器管理センターでは臨床工学技士養成機関からの学生実習(2名1組で4週間)を受け入れています。実習学生は年々増加し、本年は5月に4名、8月に2名の計6名の実習を行いました。学生さんには、血液浄化装置、心臓カテーテル検査機器、人工心肺装置、心臓ペースメーカーや人工呼吸器などのME機器の操作・管理について見学してもらいました。学生実習の目標は、大学や専門学校で学んできた生命維持管理装置などのME機器が臨床の現場で実際どのように適用されているかを見聞することで知識を深め、臨床工学技士としての必要技術修得に役立てることになりますが、それ以上に、医療従事者としての社会性や協調性を自覚させることが重要な目標であると考えています。今後も学生実習に対してご理解ご協力をよろしくお願い致します。

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長

医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~hospital/gairai/rinsyokenkyu.html>

イベントカレンダー H26.1~2月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
1/30 31	9:00~	かがわ国際会議場 サンポートホール高松	第24回日本頭頸部外科学会	耳鼻咽喉科学	(087)891-2214
2/3	17:30~19:00	医学部管理棟4階 会議室1	緩和ケア学習会・緩和ケアエキスパート研修	腫瘍センター	(087)891-2054
2/4	18:30~19:00	香川県社会福祉総合センター 6階第一研修室	香川県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会	中核病院 機能強化支援室	(087)891-2452
2/22	9:20~16:30	アルファあなぶきホール 小ホール棟5階多目的大会議室(玉藻)	第12回緩和医療に関する集中セミナー-in香川	腫瘍センター	(087)891-2075
3/14	14:00~16:00	病院地下1階 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん相談 支援センター	(087)891-2473

看護職員募集

中途採用者随時募集

助産師・看護師免許を有し、夜勤が可能な方

お問い合わせ先 087-891-2320(看護管理室)

編集委員会 (50音順)

石井(看護), 岩瀬(病棟), 岡田(総務),
鬼村(医事), 梶川(検査), 加藤(放射線),
唐木(外来), 白神(麻酔), 芳地(薬剤),
松本(看護), 安友(管理), 横井(情報),
〔委員長 千田病院長〕